

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671300469		
法人名	有限会社なかがわ苑		
事業所名	グループホームなかがわ苑		
所在地	徳島県阿南市那賀川町大京原393-1		
自己評価作成日	平成28年12月 15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の日々の表情や言動に気を配り、バイタルチェックを行うことで、体調や精神状態の変化に気づき、主治医との連携により素早く対応できるように努めている。毎日、それぞれの能力に合わせ役割を持っていただき生活している。また、レクリエーションや散歩を行うことで、体を動かし張り合いや楽しみのある日々につながるよう支援している。個人を大切に、一人ひとりと向き合い、その人らしさを尊重し、チームで統一したケアが行えるように努めている。家族様には訪問しやすい環境作りに努め、気軽に会話ができて、利用者様と一緒に支えて行く関係を築けるように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は自然環境の豊かな田園地帯に位置している。近隣には同一法人の運営するデイサービスと有料老人ホームが併設している。職員は神社のお祭りや清掃、集会等、地域の活動へ積極的に参加するなどして様々な情報を得る機会をもち、利用者との交流に繋げている。共用空間には暖かな明るい日差しが差し込み、清潔感のある心地良い安らぎの場となっている。管理者は職員とともに“いつもここに、あかるいあいさつ”を心がけ、一人ひとりに向き合っておりその人らしさを尊重し、家庭的な雰囲気を保ちつつサービスの質の向上に取り組んでいる。協力医療機関と連携を図り、適切な医療の受診を支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			I ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を目の付きやすいところに掲示し、理念に基づき利用者一人ひとりの出来ることに着目した自立支援に取り組むようにしている。	職員は、事業所の運営理念や目標として掲げている“いつもにこにこ、あかるいあいさつ”をつねに心がけている。全職員で理念を共有し、日々の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝の散歩で、地域の方との挨拶すること、顔なじみの関係を作り、地域の協議会に入会し、近所の神社のお祭り、清掃活動、集会に積極的に参加し、地域との繋がりを大切にしている。	毎朝、利用者と職員で近隣へ散歩に出かけている。地域の方と挨拶を交わしたり、野菜や果物の差し入れを貰ったりしている。また、神社のお祭りや清掃活動に参加し交流を深めている。事業所として地域との繋がりを大切に支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して頂いた地域の民生委員の方や入居者家族様に現状を知って頂き、出前カフェを行うことで地域住民の方に来て頂きグループホームを知っていたく機会を設け、交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では苑での現状を報告し、質問・意見等を頂き、分からないところはお世話センターや市役所の方のアドバイスを頂きながらサービス向上に取り組んでいる。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、事業所の運営報告や活動状況を伝えている。今後の課題や取り組みについて話し合い、意見交換も行っているが、出された意見や内容の職員間での周知・共有は十分とはいえない。	運営推進会議の内容を全職員で共有し、今後さらなるサービスの質の向上に活かすよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の報告や書類提出時、運営推進会議に参加して下さる中で、分からない事や現状の課題について知って頂き、協働関係を築くようにしている。	管理者は毎月の報告や書類提出時に市担当窓口に向かっている。事業所の活動状況等を伝え相談している。市担当者から助言を得て課題解決に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修などで身体拘束について学ぶ機会を持ち、正しい知識を得ることで、身体拘束の弊害を知り、身体拘束をせずに安全が確保できるよう取り組んでいる。	事業所で身体拘束に関する職場内研修を行っている。全職員が身体拘束の弊害を認識し、拘束をしないケアの実践に努めている。ドアを開錠し、利用者が抑圧感無く自由に安心して暮らすことができるようにしている。職員は利用者にさりげなく寄り添い、見守りを中心とした支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	施設内研修などで虐待について学ぶ機会を持ち、職員間で防止の意識を高め、不適切な言葉や行為が見過ごされることが無いよう互いに気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			I ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での勉強会や申し送り時などで自己決定権・インフォームドコンセント・守秘義務・個人情報保護・成年後見制度について学べる機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族の方に重要事項説明書や利用契約書の内容・個人情報保護等の説明を十分に行い、不安や誤解が生じないように気を付けて、同意を得るようにしている。また、改定時にも説明を行い、理解や納得に繋げている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議はもちろんのこと、来苑時、面会の機会を捉え、気軽に意見や要望をいただけるよう努め、管理者、職員は出された事柄に対しては早急に話し合い、改善に努めている。	職員は、利用者に寄りそい、本人の思いを大切に支援に取り組んでいる。家族の来訪時や電話対応では話しやすい関係作りに努めている。出された意見や要望に対してそのつど職員間で話し合い、迅速に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は適時に現場に出ることで、現状を十分把握できるように努めている。会議や申し送り時などで職員から出る意見や提案などを話し合い、早急な改善に取り組めるように努めている。	日頃から代表者や管理者は、利用者や職員の状況把握に努めている。日々の申し送りや会議以外の場でも話しやすい雰囲気作りを心がけている。職員から出された意見や要望には迅速に対応し、働く意欲の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個々の職員に資格取得に向けた支援や研修を行っている。また、資格手当・皆勤手当を設けるなど、職員それぞれの労働形態を配慮し、労働意欲の向上に繋げるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの経験や能力に応じた資格取得や外部研修の機会が持てるようにしたり、勉強会を開くことで資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者の運営推進会議に参加しあい、オレンジカフェに参加したり認知症サポーター養成講座などで交流の機会を持ち、情報の交換を行い協力関係を築くことで、サービスや業務の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			I ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に、家族の方や担当ケアマネから心身の状態や暮らしぶりについてよく聞き、ご本人からも希望や要望等について十分にお聞きし、不安を取り除けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前後、家族との話し合いの中で、思いや要望などを聞いたり、家族様の希望に添えるように話し合い、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様や本人様にこれまでの様子などをお聞きし、本人にとって今何が一番必要な支援なのかを見極め、他のサービスも含め、本人が安心して頂けるような支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬いの気持ちを持ち、利用者様の経験が生かされるように、一人ひとりの能力や意欲に応じ持てる力を活かした作業等を一緒に行うことで、お互いを支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子や健康状態について、電話などで随時連絡を取りながら報告を行い、本人にとって必要なことや困っていることなどを、家族様と協力関係を築きながら解決するように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人・知人など馴染みの来苑者には、気軽に来苑していただける雰囲気作りをし、これまでのように継続して来て頂けるように支援している。	職員は、利用者が今まで通りの関係を保ったうえで、地域の一員として暮らし続けることができるよう配慮している。地元の行事にも参加し、友人や知人に気軽に立ち寄ってもらえるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や相性を把握しながら、仲の良い者同士が会話を楽しめるようなテーブル席を工夫し、利用者同士の関係が円滑なものとなるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			I ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も電話やはがき等でその後の近況などを把握するように努め、関係を断ち切ることなく、問い合わせに応じたり相談しやすいように心掛けている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活での関わりの中で、言葉が少なくなった方の何気ないしぐさや表情等からどのような要望を持っているのかを推し測り、職員間で話し合いながら、希望や意向の把握に努めている。	職員は、意思の疎通が困難な方には、日々の関わりの中で些細な表情やしぐさ、言葉等から本人の思いを把握するように努めている。家族や周囲の関係者からも情報を得ており、本人の視点に立って一人ひとりを知るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで歩んで来られた生活を担当ケアマネやご家族にお聞きし、これまでの経過や慣れ親しんだ暮らし方、人生観・価値観等の把握に努め、その時の本人の気持ちを大切にされた支援を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの日ごりの行動や会話の中から、出来ること出来ない事を感じ取り、利用者に向けた過ごし方の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日々の言動から、また家族様からは来苑時の会話の中で、思いや要望を聞き、その人らしい生活を続けられるように職員でカンファレンス等で現状を把握し、介護計画に反映させている。	事業所では、日頃の暮らしの中で把握した利用者の思いや家族から得た情報をカンファレンスの際に共有し、問題点等について話し合っている。しかし、介護計画に反映したり、モニタリングや見直しの機会を十分に設けたりするまでには至っていない。	利用者一人ひとりの視点に立ち、本人の自立に向けた暮らし方等を反映した介護計画の作成に一層取り組まれたたい。計画は職員間で共有し、モニタリングに基づく見直しの充実に努められたたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子や介護実践・状態変化・職員の気づきを個々の介護記録に記入し、申し送り時に話し合い、情報を共有し統一したケアを行いながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の希望や家族様の要望をお聞きし、美容室訪問依頼や送迎など、その時々ニーズに合わせて、家族様と連携を取りながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			I ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節の行事を大切に、神社への参拝、高のぼり遠足、読み聞かせや歌のボランティア等の地域資源を活かした支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族様の希望を優先し、協力医療機関だけでなく今までかかっていた医療機関にも継続して受診できる支援を行っている。理解を得られた時は、協力医療機関で必要に応じ往診していただいている。	事業所では、入居時に本人や家族の希望するかかりつけ医を確認している。事業所の協力医療機関との連携体制を整備し、安心して医療を受けることができるよう対応している。家族の協力を得て専門医への受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による定期的な訪問時に、体調変化のある方について報告し、診て頂き、助言をもらい、主治医に連絡していただき適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院された際には、職員が継続して面会に行き、本人様や家族の方、医療機関の方と話し、情報交換を行いながら、スムーズに治療やケアが出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合や終末期ケアについての苑の対応力について説明し、十分な理解や了承を頂いている。利用者一人ひとりの状態に合わせた支援が行えるよう医療機関との連携体制を整備している。	契約時の段階で、利用者や家族に重度化した場合や終末期の対応について事業所の方針等を説明し同意を得ている。医療機関と密に連携を図り、家族や職員間で話し合いを重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者一人ひとりの状態を常に把握し、起こりうる急変や事故の予測、対応法等分らないことは主治医や看護婦の方に教えて頂き、申し送り時に話し合い、勉強会を行い急変時の対応の訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難方法等について検討し、話し合いながら、緊急避難網を作成し、年2回の避難訓練を実施している。また防災用の非常食や備品も備蓄している。	事業所では、日中の地震や火災に備え、職員間で自主防災訓練に取り組んでいる。しかし、消防署や近隣住民の協力を得て避難訓練を実施するまでには至っていない。	職員だけの誘導の限界を踏まえたうえで、利用者が安心して安全に避難できる方法について検討されたい。平時からの地域住民や消防関係者等との関わりや各種会議等の機会に協力を呼びかけるなど、より一層の工夫が求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			I ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した声掛けや対応を心掛け、個人の尊厳を大切にしている。また職員間でも気を付けるようにしている。	職員は、居室への出入りの際、利用者のプライバシーを損なうことがないように必ずドアノックを行い、声かけを行うようにしている。トイレ誘導や入浴支援時にも、一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の行動や言葉等に注意し、利用者の思いや希望を汲み取り、一人ひとりの能力に応じた自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心にならないように、利用者の体調やその時の気持ちを大切に利用者への対応を最優先と考え、取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の身だしなみにこだわりを持たれている方には、清潔に配慮しながらおしゃれを楽しんで頂けるように支援している。また定期的に美容師に来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事食を取り入れ、利用者の誕生日には、その方の食べたいメニューにしている。利用者と共に会話をしながら一緒に楽しく食事が摂れるように心掛けている。	事業所内で食事の準備を行っているため、リビングからは調理風景を見ることができたり、調理の音や匂いを感じたりすることができる。利用者と職員でテーブルを囲み、穏やかな雰囲気の中で食事をとっている。片付けなど、利用者ができる役割は担ってもらえるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量を記録し、利用者一人ひとりの好き嫌いや、体調の変化に応じた食材や調理方法を変更し、栄養バランス良く、出来るだけ多くを、美味しく摂取していただけるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声掛けや洗面所への誘導を行い、見守りし、利用者に合わせて支援をしている。就寝前には義歯を預かり酵素液に浸し消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			I ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者お一人おひとりの身体的な能力や排泄のパターンを把握し、声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄を重視し、自尊心に配慮した介助を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの些細な動作や表情、言動等からサインを読み取り、トイレで気持ち良く排泄することができるよう支援している。トイレ誘導の際には、自尊心に配慮した声かけを行っている。トイレでの排泄の自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録で一人ひとりの排泄状態を確認し、食事での食物繊維摂取や牛乳摂取を促しながら、スムーズな排泄や便秘の予防に取り組み、必要に応じて腹部や肛門周辺のマッサージを行い、排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの入浴の希望や意思を確認し、入浴して頂くようにしている。拒否傾向にある方にも声掛けや、タイミングを工夫し、清潔を保てるように支援している。	職員は、利用者の体調や身体状況に応じ、安心して気持ち良く入浴を楽しんでもらえるよう支援している。入浴を拒む方には、声かけやタイミング等を工夫している。便尿失禁した時には状況に応じた清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりのこれまでの生活習慣を尊重し、その時々体調や要望に応じて休息を取っていただいたり、季節に合わせた室温調節などを行いながら、より良い睡眠を取っていただけるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの罹患されている病気を把握し、服薬されている薬に対しての知識を深め、服薬に際しては誤薬の無いように確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の意欲や持てる能力に応じた役割を考慮し、日常生活でのお手伝い等をして頂いている。喫煙を継続されている方には安全や吸い過ぎに気を付けて見守り支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に応じて毎朝散歩に出かけている。年間行事計画をたて、花見や遠足、外食等、外出の機会をもうけている。ご本人や家族様の希望を取り入れ、美容院や専門外来受診等一人ひとりの要望に応じている。	毎朝、利用者と職員で近隣へ散歩に出かけている。季節の移り変わりを肌で感じ、気分転換ができるようにしている。年間を通じ、花見や外食、遠足に出かけ戸外で気持ち良く過ごすことができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			I ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様やご家族様の考えや要望をお聞きし、一人ひとりの能力を考慮したお金を持っていただき、買い物に出かけた時に自らお支払いしていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が家族に連絡を取りたい時には、家族の要望も考慮しながら連絡が取れるように支援している。また、年賀状が届いた折には、年賀状のお返事を出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間であるホールは南向きで日差しが入り明るく、壁面は季節感を感じられる様な環境づくりに努め、居心地の良い空間を作るようにしている。	共用空間には暖かな日差しが差し込み、清潔感のある安らぎの場となっている。壁面には季節を感じることでできる作品を展示している。対面式の調理場は職員と会話ができ、料理の匂いや音を感じることでできる家庭的な雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様一人ひとりの性格や利用者様同士の相性を考慮し、ホールの食事時の席を決めたり、ソファーに座る際には気の合う入居者同士が会話を楽しみ、安心感を得られるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人や家族様とも相談しながら、利用者様が使い慣れた物や好きな物、思いで深い物などを置き、居心地よく安らげるように工夫している。	事業所では、本人の馴染みの品物を居室に持ち込んでもらっている。一人ひとりが居心地良く落ち着いて過ごすことのできる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの力を把握し、居室やトイレなどに目印を付けている。また、必要な場所に手すりを設置するなど、何が必要かを見極め、不安や混乱を招くことが無いような環境整備に努めている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Ⅱユニット 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を申し送り時に唱和し、利用者様の自立の力と共に支え合うことで、より良い生活ができるように、日々取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日には利用者と職員で事業所の周辺を散歩し、挨拶を交わすことで、馴染みの関係を構築し、地域との繋がりを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して頂いた地域の民生委員の方や入居者家族様に現状を知って頂き、出前カフェを行うことで地域住民の方に来て頂きグループホームを知っていただく機会を設け、交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では苑での現状を報告し、質問・意見等を頂き、分からないところはお世話センターや市役所の方のアドバイスを頂きながらサービス向上に取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている市の担当者に、法令や運営について解らないことがある時はお聞きし、アドバイスや的確な返答を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間ベッドから転落の危険がある方について話し合いを持ち、常に職員の目の届くところで休んでいただき、拘束に繋がる行為の無いように取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について学び、職員間でも注意を行い、言葉や介助に於いて虐待に繋がっていないか、虐待が見過ごされることが無いよう互いに気を付け防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Ⅱユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について施設内での勉強会や研修で学び家族様との話し合いの中で必要に応じ相談できる方を紹介したり、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約・改定時には家族の方に重要事項説明書や利用契約書の内容・等について、十分に説明を行い、理解や納得を得られた上で署名・押印していただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議はもちろんのこと、来苑時、面会の機会を捉え、気軽に意見や要望をいただけるよう努め、管理者、職員は出された事柄に対しては早急に話し合い、改善につなげている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は常に現場に気を配り、会議や申し送り時などで意見や提案などが発言できる環境づくりと意見に対しての迅速な対応を心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々に合った労働条件等を配慮し、勤務の継続や意欲の向上に繋げるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修でケアの向上を図り、職員一人ひとりの経験や能力・希望に応じ、新たな資格習得や外部研修の機会が持てるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者の運営推進会議に参加しあい、オレンジカフェに参加したり認知症サポーター養成講座などで交流の機会を持ち、情報の交換を行い協力関係を築くことで、サービスや業務の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Ⅱユニット 実践状況	実践状況	実践状況
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に、家族の方や担当ケアマネから心身の状態や暮らしぶりについてよく聞き、ご本人からも希望や要望等について十分にお聞きし、不安を取り除けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前後、家族との話し合いの中で、思いや要望などを聞いたり、家族様の希望に添えるように話し合い、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様や本人様にこれまでの様子などをお聞きし、本人にとって今何が一番必要な支援なのかを見極め、他のサービスも含め、本人が安心して頂けるような支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬いの気持ちを持ち、利用者様の経験が活かされるように、一人ひとりの能力や意欲に応じ持てる力を活かした作業等を一緒に行うことで、お互いを支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子や健康状態について、電話などで随時連絡を取りながら報告を行い、本人にとって必要なことや困っていることなどを、家族様と協力関係を築きながら解決するように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人・知人など馴染みの来苑者には、気軽に来苑していただける雰囲気作りをし、これまでのように継続して来て頂けるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格や相性を把握しながら、仲の良い者同士が会話を楽しめるようなテーブル席を工夫し、利用者同士の関係が円滑なものとなるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Ⅱユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後電話やはがき等でその後の近況などを把握するように努めている。また状態が変わっていく中で、どの様な介護サービスを受けたらよいか等の家族様からの相談にも応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活での関わりの中で、言葉が少なくなった方の何気ないしぐさや表情等からどのような要望を持っているのかを推し測り、職員間で話し合いながら、希望や意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで歩いて来られた生活を担当ケアマネやご家族にお聞きし、これまでの経過や慣れ親しんだ暮らし方、人生観・価値観等の把握に努め、その時の本人の気持ちを大切にされた支援を心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの日ごろの行動や会話の中から、出来ること出来ない事を感じ取り、利用者に合った過ごし方の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日々の言動から、また家族様からは来苑時の会話の中で、思いや要望を聞き、その人らしい生活を続けられるように職員でカンファレンス等で現状を把握し、介護計画に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子や介護実践・状態変化・職員の気づきを個々の介護記録に記入し、申し送り時に話し合い、情報を共有し統一したケアを行いながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の希望や家族様の要望をお聞きし、美容室訪問依頼や送迎など、その時々ニーズに合わせて、家族様と連携を取りながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Ⅱユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	神社への参拝や桜花見・鯉のぼり遠足など季節ごとの行事を大切にし、ボランティア訪問などの地域資源を活用した支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医だけでなく家族様が希望される医療機関や、今までかかっていた医療機関にも継続して受診できる支援を行っている。また指示を受けた専門医療機関への受診を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による定期的な訪問時に、体調変化のある方について報告し、診て頂き、助言をもらい、主治医に連絡していただき適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様の入院時には、職員が見舞うことにより本人様や家族様、医療機関の方と話し合いの機会を持ち、治療等をスムーズに行えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですでできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期ケアについて苑の対応力について説明し、十分な理解や了承を頂いている。利用者の変化する状態を家族に報告し、その都度話し合いを持ち、医療機関と連携を図りながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様一人ひとりの状態を常に把握し、起こりうる急変や事故の予測、対応法等分らないことは主治医や看護婦の方に教えて頂き、申し送り時に話し合い、勉強会を行い、急変時の対応の訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行いながら、入居者個々に合った避難経路や避難方法を話し合い、災害時に冷静に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Ⅱユニット 実践状況	実践状況	実践状況
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの誇りやプライバシーを損なうことがないように声掛けや対応を行い、研修会の参加や勉強会を行うことでサービスの向上に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で思いを上手く伝えられない利用者様に対しては、表情や短い発語や行動などを見逃さず観察を行い、思いを汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務中心にならないように、利用者の体調やその時の気持ちを大切に、利用者への対応を最優先と考え、取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師の来苑があり、整髪をしてもらっている。また希望に応じて、馴染みの美容室への外出が出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が自ら申し出て下さり、職員と一緒に、食事準備から食器のあと片付けをまでその方の能力に応じた、様々なお手伝いをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の摂取する方法や咀嚼できる力に合わせた調理方法を工夫して、栄養バランスよく食事を摂っていただけるように努めています。水分も出来るだけ取っていただけるように声掛け支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きの声掛けや洗面所への誘導や見守り等利用者に合わせた支援を行い、就寝前に義歯を酵素液に浸し消毒を行い、利用者の状態に応じて職員による口腔ケアで口腔内の清潔を保てる様支援している		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Ⅱユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄の自立に向けて、利用者の排泄パターンを把握し、自尊心に配慮しながら、トイレ誘導や介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録で一人ひとりの排泄状態を確認し、食事での食物繊維摂取や牛乳摂取を促しながら、スムーズな排泄や便秘の予防に取り組み、必要に応じて腹部や肛門周辺のマッサージを行い、排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の身体状況や希望に配慮しながら、入浴支援を行っている。また菖蒲湯や柚子湯を提供することで、季節感を味わい、楽しんで頂くようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣を把握し、レクリエーションや体操・散歩に参加することで日中の活動量を増やし夜間の良眠に繋げられるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の服薬している薬の目的や副作用・用法容量などの薬に対する知識を深め、罹患されている病気を把握し、状態の変化に気を付け話し合い共通理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の持てる力に応じた、お手伝い等の役割やレクリエーション、音楽療法やボランティアの訪問で楽しみ事や気分転換の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事計画をたて、花見や遠足、外食等、外出の機会をもうけている。ご本人や家族様の希望を取り入れ、美容院や専門外来受診等一人ひとりの要望に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			Ⅱユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様がお金を持って頂くことで、安心感を得られ、心にゆとりを持って過ごされるよう、一人ひとりに合わせた支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が家族に連絡を取りたい時には、家族の要望も考慮しながら連絡が取れるように支援している。また、年賀状が届いた折には、年賀状のお返事を出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁を飾る掲示物などはその時々、利用者様と職員による手作したり、季節の花を飾り、季節感を感じていただけるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はホールで過ごされたり、入居者同士で会話を楽しみ、時には自室での休息がとれたり、入居者様が思い思いに過ごせる様に支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様には居室に家族写真や造花やヌイグルミなどを置き、華やかに飾り付けるなど工夫を凝らして、寂しさを感じることがないようにとの思いが込められている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様一人ひとりの力を把握し、自室やトイレなどに目印を付けることで、不安や混乱を招くことなく、安全かつ自立した生活が送れるような環境作りを心掛けている。		